



東京部会(第46回)

日時: 2012年2月23日(火) 19:00-21:20

場所: 日本大学経済学部7号館13階会議室3

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、高橋(桜修館中等教育)、山崎(北海道豊富高:筑波大院)、横山(本郷中学校高等学校)、升野(筑波大学付属中学校)、中沖(清水書院)、石山(東証)、榊原(東証)、鈴木(日本経済教育センター)、吉村(宮崎大)、橋本(福井大)、氏岡(朝日新聞)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、まず3月24日に宇都宮で中学校の社会科の先生向きにワークショップを行い、篠原・三枝・猪瀬先生が話をする予定との報告があった。さらに東京部会の前後に、単純化された一般均衡論の講義を篠原先生が中高の先生向きに行くことも検討された。ただし日時は未定。
2. 新井先生より配布されたレポートに基づき、この夏の経済教室の最終的な詰めが行われた。8月の2日より22日までのスケジュールで、広島、大阪、名古屋、東京とそれぞれ中高向けの内容をほぼ最終決定した。注目点は、ユーロ圏の危機のような今日的な問題を取り上げること、および幸福や正義といった経済教育上の新たな視点についての講義を加えることなど。
3. 新井先生と篠原先生より、「今年の入試問題の話題」が取り上げられた。相変わらず、「粗雑」な間違いをしたり(需要曲線と供給曲線を逆にしたり)、リード文が極度に「偏向」したものがあったり、また答えが分かりにくく予備校によって解答が違ったという例がいくつか指摘された。「余剰」に関する問題も「社会全体の利益」という表現で登場したが、必ずしもよい問題とはいえないという指摘があった。
4. 高橋先生より、配布資料「価格のあり方を考える」があり、その中で、生徒たちが「行列のできるラーメン屋で料金を払うと待たずにすむ例」については拒否反応を示す一方で、「手に入れるのが難しいチケットについてファンクラブの会費を払えば優先的にチケットを入手できる例」については問題なく受け入れる傾向が指摘された。それについて色々な討論が行われたが、いずれにしても、経済教育において留意すべき重要なポイントであるという点では意見の一致をみた。
5. 宮尾より、書評「米経済学者の意見」と「効率と公平の問題の解説」が配布され、特に後者の小塩隆士著『効率と公平を問う』では冒頭から「効率と公平がトレードオフ(二律背反)の関係にある」と述べていることについて疑問が出された。むしろこれらが両立するような考え方や政策提言をすることが経済学の正しいあり方であるという意見が述べられたが、それに対して色々な議論が行われた。また新井先生からは、この本の教育を扱っている内容についての批判的な感想が述べられた。それにもかかわらず、この本は推薦に値するという点では異論が出なかった。

(文責: 宮尾尊弘)

次回開催予定:

3月16日(金) 18:00~20:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室3。議題は、夏の経済教室の最終的な内容の発表、入試問題分析プロジェクト、その他。